

2022年3月期第1Q決算説明会（オンライン）の主な質疑応答

Q：1Qの業績について、前期比では回復しているが、前々期比ではどうだったのか？車載は半導体影響が大きいと思うが、パブリックサービス分野（PS）やメディアサービス分野（MS）については今どういう状況になっているのか教えてほしい。半導体不足の影響について、モビリティ&テレマティクスサービス分野（M&T）だとアフターマーケットが大きいのか、ASKのような子会社が大きいのか、どういった製品なのかなど、傾向があれば教えてほしい。また御社が生産できない問題と、納入先である自動車メーカーの減産の問題とでは、どちらが大きいのか？

A：半導体含む部品不足の影響により、全社で売上収益約86億円、コア営業利益約23億円の悪化影響が発生したと見ている。一番大きな影響を受けたのがM&T分野で、それがなければ470億円ほどの売上収益、20億円ほどのコア営業利益となり、2019年度を上回る実績になったものと考えている。PSについては、半導体による売上収益への影響は1億円程度だったので、2019年度と比較すると売上収益はまだ戻ってきていない。特に国内の業務用システム事業に関しては、前期の1Q比では大分戻ってきているが、2019年度比ではコロナ影響からまだ戻り切っていない状況が続いている。ただ利益については、部品の値上げによる影響が2億円ほどあったと見ているので、2019年度比でも利益が残る体質になってきたと考えている。MSについては部品影響はほとんど受けていない状況だが、BtoCは順調なものBtoBの業務用カメラやプロジェクターはまだ戻り切っていないと見ている。2Qから下期にかけて回復を期待したい。

Q：MSについては2019年度比で売上収益は減ったものの、利益は大分改善してきているように思えるが、中身が改善してきているのか？

A：MSはメディア事業での開発効率も良化しており、コスト面で大分改善していると考えている。

Q：半導体など部材のコストアップについて、販売価格への転嫁はないか？車載の市場はかなり成熟しており、残存者メリットを享受しやすくなっていると思われるので、価格競争力は依然と比べて大分上がってきているのではないか？コストアップ分の価格への転嫁についての考え方を聞かせてほしい。

A：購入する部品に加え素材の価格も高騰しており、現在価格交渉を進めている状況である。

Q：決算説明資料P.10（M&T）のテレマティクスの1Q実績は、前期比で同等か微減収のように見えるが、売上収益、コア営業利益は計画比ではどうだったのか？

A：部品供給問題で生産ができなかったこともあり、想定比では売上収益・利益ともに厳しい結果になった。売上収益で数億円減、コア利益でも2～3億円減となったと見ている。

Q：ASKの今期1Q売上収益は前期比で約2.4倍になったということだが、2Q以降はどのように考えればいいのか？

A：2Q以降、一部の部品不足の影響も出始めているものの受注自体は堅調なので、年内くらいまでは今の状況が継続するものと考えている。

Q：半導体不足が今期に与える影響として、期初の想定ではコア営業利益で30～40億円程度だったと思うが、想定

より影響の長期化が見込まれる中で、影響はさらに大きくなるのか？また、カバーするための取り組みについて教えてほしい。

A：期初想定では、夏ぐらいまでは影響が残り、秋口ぐらいには回復してくると思っていた。1Qは部品の置き換えなどの対応で想定に対してはかなり影響が抑えられ、経費のコントロールなどもできたので、1Qの利益は想定を上回ったと考えている。2Q以降については、当初の想定よりも影響期間は長くなると考えられるが、1Q同様に部品の置き換え、新商品への切り替えなどを進めて、期初に想定していた今期コア営業利益への影響額30～40億円より増えないような取り組みをしていく。

Q：「その他の収益」について、事業の売却益は期初計画に織り込んでいたということだが、ファンドの投資運用益はイレギュラーだったということか？こうした一時的な収益も使用して、来期以降収益性を上げていくような構造改革を下期実施する計画はあるか？

A：金融資産の評価益は期初計画には織り込んでいなかったもので、この11億円程度は想定外のプラスということになる。2Q以降の半導体の影響も含め市場動向が不透明な中、予備費のようなイメージで考えている。

以上